

株式会社 シンシア
代表取締役 / クリエイティブディレクター

柴田 博文

九州芸術工科大学（現 九州大学芸術工学部）卒業後、凸版印刷（株）（現 TOPPAN ホールディングス（株））の系列会社をはじめ、複数の企業で45年以上にわたり広告制作・広告代理業に携わる。2013年、地元の瀬戸内市に（株）シンシアを設立。テレビCMや新聞広告、ホームページなど多様な広告コンテンツを通じて、企業の長期ブランディングをサポートしている。



広告の力で岡山のビジネスを一層元気に 企業の長期的ブランディングを支える

“クリエイティブも地産地消”を掲げ、広告を通じて地元企業のトータルブランディングを長期的にサポートしている（株）シンシア。約45年にわたるキャリアの中でさまざまな実績を残してきた柴田社長に、元ボクシング世界王者の西岡利晃さんがインタビューした。

Guest Comment>>



西岡 利晃（元ボクシング世界王者）

約45年という長いキャリアを通じて、多様な業種の広告・ブランディングをサポートしてこられた柴田社長。実力は折り紙付きです。そんな社長にだからこそ、クライアントさんも安心して広告に関するすべてをお任せできるのでしょうか。これからは豊富な経験を生かし、頼れるパートナーとして、クリエイティブの側面から地元企業を支えていってほしいですね！

さまざまな実績を残した会社員時代

西岡 広告制作・広告代理業を手がけていらっしゃる（株）シンシアさん。まずは柴田社長がこの業界に足を踏み入れたきっかけから教えてください。

柴田 私のキャリアの原点は、高校時代にあります。理系コースで美術部員でもあった私に、美術部の顧問の先生が福岡市内にある九州芸術工科大学を紹介してくれたのです。そこは、アートとサイエンスを融合させた芸術工学部という新しい分野の学問を追究する大学でした。理系で美術部所属の、まさに私にぴったりだと思い、入学を決意しました。今振り返ってみると、この決断が人生の大きな

ターニングポイントだったと思います。

西岡 顧問の先生の助言が、柴田社長の進路に大きく影響したのですね。

柴田 その通りです。卒業後は、同じく福岡市内の凸版印刷（株）傘下の企画・制作会社に就職し、多様な業種・制作物のディレクションに携わりました。中でも印象に残っている仕事がある。地方銀行のCI（コーポレートアイデンティティ）導入です。CIは、新たなロゴやシンボルマークを通じて社内外の人々に企業理念を浸透させるための活動で、日本では80年代に大きなブームとなりました。この仕事で私はディレクターとして、企業理念や従業員の行動指針の策定、ロゴやパンフレット、さらには通帳や看

板の制作などCI導入にまつわるすべてを任されたんです。大変なこともありましたが、チームのおかげで、凸版印刷（株）の社長賞をいただきました。

西岡 それはすごいですね！

柴田 ありがとうございます。その後、30代半ばで故郷に戻り、岡山県内の広告代理店2社を経て、2013年に起業独立したという次第です。

西岡 岡山ではどのようなお仕事？

柴田 クリエイティブ部門の責任者として、大手カーディーラーとの仕事に携わりました。テレビCM、新聞広告、折込チラシ、イベント…とトータルに販売促進プランを考え、毎月コンペに参加する日々は大変でしたが、課題に一生懸命取り組む中で、クリエイティブディレクターとしてさらに鍛えられました。

クリエイティブも“地産地消”

西岡 長いキャリアの中で、さまざまな実績を残されてきたんですね。改めて、御社の事業内容をお聞かせください。

柴田 当社は、クリエイティブエージェンシー兼広告代理店として、テレビ・ラジオCMや新聞広告、ホームページなど、企業のPRやブランディングに必要なコンテンツ全般の制作および、つくった素材をどう生かすかまでのお手伝いをさせていただいています。テレビCMなら、流すエリアや番組など、いかに届けるかまで責任を持つべきだと考えています。

Company Data>>

新・視・野
CYNTHIA
株式会社シンシア

株式会社 シンシア

〒701-4215
岡山県瀬戸内市邑久町上山田681
URL <https://cynthia72.co.jp>



また、新聞広告なら、何日・何曜日の紙面を押さえ、どんなデザインにしたら最も効果的か、などといったプランニングから広告枠の押え・提供まで、トータルに引き受けているんです。また、今の時代、リアルとWebの媒体を組み合わせる「クロスメディア戦略」で企業の広告・ブランディングをサポートすることがとても重要です。

西岡 なるほど。御社のホームページには“クリエイティブも地産地消”というフレーズが掲げられていますが、やはり地元を軸としたお仕事を中心なのでしょう？

柴田 はい。ローカルのクリエイターとして、地元企業の発展や地域の文化・芸術振興に携わってきたいという思いが強いです。例えば当社では、過去に地元石油会社様のテレビCMを制作しました。その際に、地元出身のプロのトロンボーン奏者の方に出演していただいたんです。CM放映後には、当社と石油会社様が主催者となってその方のコンサートを地元の会場で開いたんですよ。

長期的なトータルブランディング支援を

西岡 御社は「岡山美人時計」の運営・管理にも携わっていたそうですね。

柴田 そうなんです。これまで当社は多数の案件を通じて、地元のクリエイターやイベント、地元出身のアーティスト、美人時計に出演したモデル・インフルエ

ンサーと強固なコネクションを築いてきました。そのコネクションに基づいた良質なコンテンツが、当社の何よりの強みです。そういったコンテンツをもとに地元企業と信頼関係を築き、長いスパンでトータルブランディングのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

西岡 実際に、そういった関係でお仕事をされているクライアントさんはいらっしゃるのですか？

柴田 はい。医療廃棄物処理の会社では、テレビCM・ホームページ・会社案内パンフレット等、主要なPR媒体すべてを任せていただいています。また、ある保育園では、テレビCMをはじめ、各種の園内行事の動画撮影～DVD化、保育士募集や園児募集のためのPR動画の作成など、多岐にわたって担当。どちらも長いお付き合いです。クライアント様に感動していただき次回もご依頼いただくために、常に期待値を上回ることが私のモットーなんです。

西岡 何にでも対応できる柴田社長は、お客さんにとってクリエイティブのことならワンストップでお任せできる頼れる存在なのでしょう。

柴田 今、“好き”を仕事にできている幸せをかみしめています。今後も45年以上のキャリアを生かし、論理思考だけに偏らずアート思考を加味して、当社とクライアント様の双方が「ワクワク」「ドキドキ」できる仕事で、地元を盛り立てていきたいと思っています！

